レビ記25章1－22節「ヨベルの年」

1A 安息年 1－7
2A 所有地への帰還 8－17
3A 三年間の収穫 18－22

本文

レビ記 25 章を開いてください。私たちは今晩、前半部分 1-22 節を見て行きたいと思います。

1A 安息年 1－7

1 主はシナイ山でモーセにこう告げられた。

シナイ山でモーセの主が告げられました。25 章と 26 章は、主がイスラエルに与えられる土地についての律法です。これまでは主がモーセを呼んで会見の天幕から語られていましたが、ここではシナイ山から語られています。幕屋における奉仕ではなく、これから行く、約束の土地についての律法だからです。25 章は、安息年とヨベルの年、そして買い戻しの権利について話します。

2「イスラエルの子らに告げよ。 わたしが与えようとしている地にあなたがたが入ったとき、その地は主の安息を守らなければならない。3 六年間はあなたの畑に種を蒔き、六年間ぶどう畑の刈り込みをして収穫をする。4 七年目は地の全き休みのための安息、主の安息となる。あなたの畑に種を蒔いたり、ぶどう畑の刈り込みをしたりしてはならない。5 あなたの落ち穂から生えたものを刈り入れてはならない。あなたが手入れをしなかったぶどうの木のぶどうも集めてはならない。これは地のための全き休みの年である。6 地の安息はあなたがたに食物をもたらす。すなわち、あなたと、あなたの男奴隷と女奴隷、あなたの雇い人と、あなたのところに在住している居留者のため、7 また、あなたの家畜と、あなたの地にいる獣のために、その地の収穫はすべて食物となる。

週ごとに安息日を守るだけでなく、七年毎に土地を一年間休ませます。刈り入れもしてはいけません。種を蒔いてもいけません。全く手入れをしてはいけません。働き好きの私たち日本人には、到底受け入れがたい戒めです。これでは放置状態であり、私たちは何とかせねばと思います。

ところが、それがむしろその土地のためになります。6 節に、「あなたの食糧のためになる」とあります。これは一般的にも通用する原則であり、連作をするとその土地が痩せると言われます。だから他の作物を植える訳ですが、イスラエルの土地の場合は一切の耕作を止めます。さらに豊かになるために、むしろ働きを止めるということが必要だという神の教えです。

私たちはどうして、ひっきりなしに働くのでしょうか？一つは不安です。働かないと収入が減る、他の人たちに追い越される、などの不安がいつも労働へと駆り立てます。もう一つは貪欲です。もっと富が欲しい、もっと成績を伸ばしたい、という欲望が休むことを止めさせます。けれども、そこにあるのは「神が働かれる余地を除外」することに他なりません。主が実を結ばせてくださるという、神こそが命と成長の源泉であることを忘れて、自分たちの手こそが成果を結ばせるのだという傲慢がそこにはあります。

神は、私たちの助けなしに、まったく妨げられることなく働くことがおできになるのです。すべての良いものは神から来ていることを知るには、立ち止まる必要があります。そして自分が行うべきことはそれほど多くはなく、実に主の命令を聞き、それを守ることだけなのだという単純なことなのだと気づくには、立ち止まる必要があるのです。

なぜこんなにも主が休むことを強調されているかと言いますと、それはイスラエルがエジプトで奴隷だった、ということがあります。奴隷は休むことができません。休むということは、奴隷状態から解放されて自由人になったことを表しています。そしてもっと昔を辿れば、汗して働くことはアダムが罪を犯した後に神が土地を呪われたところから始まります。神を認めないで、自分の知恵で生きることを選んだ者には、自分で動かなければいけない、けれども空回りしている人生を歩んでいる、思ったような成果が上がらないという重荷を背負うのです。その鎖を断ち切ってくださるのが、安息の実体であられるキリストであり、キリストを思う時に私たちに魂の安息が与えられます。

そしてもう一つの目的は、貧しい人たちに食べさせるということがあります。自分たちは昨年の収穫物を食べるのですが、土地を持っていない貧しい人々が今年の収穫物を自由に食べることができます。この年において、土地を持って農業を営んでいる人も、持たずに奴隷として働いている人も、全く同じように休むことができるのです。

主は、全ての人が等しくご自分に近づくようにすることを望んでおられます。ローマ人への手紙を読みますと、すべての人が罪を犯して、神の栄誉を受けることができなくなっていることを教えています。どんな類いの人であっても、罪を犯しました。ゆえに、どんな人も、ただ神が備えてくださったキリストの十字架による罪の赦しによって、救われることができます。救いにおいては、何の差別もありません。私たちが教会として集まる時に、誰一人として、誰かがより神に近づいて、他の人が神から遠いということは決してないのです！キリストにあって、全ての人に神は近いのです。

ここレビ記ではなく申命記 15 章において、この年に行わなければいけないもう一つのことが書いてあります。負債を免除することです。イスラエル人の間で起こっていた貸し借りが、七年毎に帳消しになります。ここにおいても、「疲れを休ませる」という考えがあります。これまでの経済活動を一切、振り出しに戻させるのです。それによって、全ての人が、各人、主の前で身軽になること

ができるのです。

これが、「罪の赦し」につながります。新約聖書では、「罪の赦し」が「負債」に例えられています。借りているお金が帳消しにすることを、罪を赦すことと同じにしています。私たちがキリストの前に来るときにこそ、あらゆる人間関係にあったもつれが解きほぐされます。赦すことによってこそ、私たちは初めの行いに戻ることができ、神の前にも、人との間にも、新たな歩みを始めることができるのです。

ところで、実はイスラエルはこの戒めをずっと守りませんでした。紀元前 586 年、ユダがバビロンによって捕え移された時、歴代誌第二の最後の章を読みますと、こう書いてあります。「36:21 これは、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。その荒廃の全期間が七十年を満たすまで、この地は安息を得た。」ユダの国が主に背き続けたので、主は彼らをご自分の地から引き抜かれました。その預言については、次回レビ記 26 章で学びますが、この戒めについても背き続けていました。それで主が強制的に、その土地を休ませるために彼らを取り除けたのです。

2A 所有地への帰還 8－17

8 あなたは安息の年を七回、すなわち、七年の七倍を数える。安息の年が七回で四十九年である。
9 あなたはその第七の月の十日に角笛を鳴り響かせる。宥めの日に、あなたがたの全土に角笛を鳴り響かせる。10 あなたがたは五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰り、それぞれ自分の家族のもとに帰る。11 この五十年目はあなたがたのヨベルの年である。種を蒔いてはならないし、落ち穂から生えたものを刈り入れてもならない。また手入れをしなかったぶどうの木のぶどうを集めてはならない。12 これはヨベルの年であって、あなたがたには聖である。あなたがたは野の収穫物を食べる。

七年に一度ある安息年を七度経た時には「ヨベルの年」があります。23 章の学びでは、初穂の祭りから七週を数えた日が五旬節ですが、似ていますね、週ではなく年を数えます。

七度目の安息年の宥めの日に、ラッパを吹き鳴らします。「ヨベル」とは、「雄羊の角笛」という意味です。その時は安息年と同じように、土地を完全に休ませます。したがってヨベルの年の目的の一つは安息年と似ており、「疲れたものを休ませ、回復させ、新たな始まりを与える。」ことにあります。けれども安息年にはないヨベルの年の大きな特徴は、それぞれが自分の所有地に帰還する時であります。

13 このヨベルの年には、あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰る。14 もしあなたがたが、同胞

に土地を売ったり同胞から買ったりするときは、互いに損失を与えないようにしなさい。[15] ヨベルの後の年数にしたがって、あなたの同胞から買い、収穫年数にしたがって相手もあなたに売る。[16] 年数が多ければ、それに応じてあなたはその買い値を増し、年数が少なければ、それに応じてその買い値を減らさなければならない。彼があなたに売るのは収穫の回数だからである。[17] あなたがたはそれぞれ同胞に損失を与えてはならない。あなたの神を恐れよ。わたしはあなたがたの神、主だからである。

エジプトの奴隷状態から解放し自由人になったことを表すのは、安息であることを先ほど話しましたが、土地を所有することは自由を得たことの何よりもの証拠です。主はかつてアブラハムに、カナン人の地を彼の子孫に与えることを約束してくださいました。そして彼らはこれから約束の地に向かって旅をし、それからカナン人の地に入ったらそこを部族ごとに割り当て、また部族内でも氏族、家族ごとにその土地を割り当てます。神は、初めに定めた地は決して失われるものではないと堅くお決めになったのです。

ところが、経済的事情が必ず生じます。ある人が富み、他の人が貧しくなります。そのため貧しい人が土地を売らなければいけなくなります。ところが五十年目には、それら全ての土地譲渡がリセットつまり原状回復します。必ず、元所有者の所に戻るのです。このようにして神は、代々、初めに定められた相続地を誰かに売り渡されることのないようにしてくださっているのです。

そこで土地の売買は、次のヨベルの年までどれだけ収穫することができるのかでその評価額が決まります。40 年先にヨベルの年があるのであれば、40 回の収穫数に応じた価値があり、10 年後にヨベルの年があるならば 10 回の収穫数に応じた価値があります。今読んだところは、それを無視して土地の売買をするとのないようにという戒めです。「神を恐れなさい」と主は言われます。

パソコンの OS ウィンドウズは、使用すればそれだけ OS 全体の動きが遅くなります。けれども、けれども、ウィンドウズを再インストールします。そうすれば、まったく新しい所から始められるので問題は解決します。いわば、ヨベルの年というのは、ウィンドウズの再インストールのようなものです。人の思惑によって、神が初めに与えられた土地の約束が次第に損なわれていきます。それで神は七年の七周期という時を定めて、新たな始まりを設けてくださっているのです。

これを神は、人間の救済の歴史において大体的に行ってくださいます。神は世界を回復される時を定めてくださいました。主イエス・キリストが再び来られる時に、アダムが罪を犯した時以来、損なわれてしまったこの地を一気に回復してくださるのです。ペテロは、ユダヤ人に説教をした時にヨベルの年のことを思いながら、このことを話しました。使徒の働き 3 章 19-21 節です。「ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエ

スを、主は遣わしてくださいます。このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」

3A 三年間の収穫 18－22

18 あなたがたはわたしの掟を行い、わたしの定めを守らなければならない。それを行うなら、その
地に安らかに住むことができる。19 地は実りをもたらし、あなたがたは満ち足りるまで食べ、安らか
にそこに住むことができる。20 あなたがたは、『もし私たちが種を蒔かず、また収穫もしないなら、
七年目には何を食べればよいのか』と言うであろうが、21 わたしは六年目に、あなたがたのために
わたしの祝福を命じ、三年分の収穫を生じさせる。22 あなたがたが八年目に種を蒔くときにも、前
の収穫をなお食べている。九年目まで、その収穫があるまで、なお前のものを食べることができる。

安息年またヨベルの年に、土地の休耕をする時に試されるのは、自分たちの食糧です。一年間まるごと耕作をせず、しかもその年の収穫物を食べません。そして安息年の翌年に種を植えることができても、収穫は次の年になります。したがって三年分の収穫が、安息年の前の年に必要なのです。主はそのことを約束してくださっています。かつてマナを安息日に集めてはならないと主が命じられた時に、その前の日のマナを二日分与えると約束されていました。それでも安息日に集めに行った人がいて、モーセが怒ったところを読みましたが、はたして主が備えてくださるのかどうか心配なのです。それで主が、細心の配慮をもって必ず三年間の収穫を生じさせることを約束してくださっているのです。

イエス様は、「マタ 6:25 ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。」と言われました。そして二つの例を挙げておられます。空の鳥と野の花です。私たち人間は種蒔き、刈り入れ、倉に納めることをしますが、空の鳥は神に養われています。野の花は、ソロモンが窮めた栄華よりも美しく着飾っています。空の鳥も、野の花でさえそのように神に養われているのだから、どうして神の子供たちを養わないはずがあろうか、とイエス様は言われます。そして、こう言われました。「マタ 6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

安息を週ごとに、そして七年ごとに持つことは、神が養ってくださることを信じることに他なりません。言い換えれば、食べ物も財産も、神からの恵みがなければ何一つ持つことができないものであるという認識です。すべては神から来ており、自分が持っているものは何もないのだ、という認識です。